



## 大西脳神経外科病院だより 第22号

# ぶれいん

発行日:平成22年8月吉日

発行人:学術図書委員会

発行責任者:大西 英之

編集責任者:吉野 孝広

### 大西脳神経外科病院の理念

生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する。

### 大西脳神経外科病院の基本方針

生命と人権を尊重した医療を実践する。

神経疾患の専門的・高度医療を実践する。

常に新しい医学の修得に励む。

救急医療は医療の原点と考え、24時間対応する。

地域の医療機関との連携を密にし、地域協力型の医療を志向する

### 「一步先を進める医療従事者に」4月朝礼より

理事長・院長 大西 英之



18世紀後半イギリスから起こった産業革命は石炭による蒸気機関をエネルギーとしてヨーロッパを中心に栄えました。その後第二次産業革命により石油を原動力とした工業が発展する事になるのですが、これらの革命化に乗り遅れた国は取り残され発展が遅れていった歴史があります。

原動機のエネルギーが石炭から石油、今後は電気がその中心を担うはずで、充電して走る電気自動車の時代がもうそこまで来ています。何が言いたいのかと言うと世の中はどんどん進化しているという事です。その進化に対応できないと取り残されたり、忘れ去られたりしてしまいます。常に変化に対応し、先頭に立つようにしないとイケません。

企業にあっては、一步先を進む気持ちで臨んでいないと取り残されることとなります。医療業界についてもどんどん医療制度は変化していますので、病院においても同じように従来のやり方では取り残されて生き残れないようになります。

医療崩壊が叫ばれる今、病院の倒産があらゆるところで起こっています。今回の点数改定では医療崩壊を食い止めるための診療報酬改定を公約していたはずでしたが、全体で0.19%と微々たるものでした。それでも当院は先駆けて対応を行っていたので今回の改正は良い方向でした。しかし、対応を進めなくてはならない点もまだ多く残っています。

新入職員の皆さんは今新しい門出に希望に満ちあふれていると思います。その気持ちはずっと忘れず頑張ってください。しかし、学生時代と違いそれぞれの行動に責任が大きく掛ってきます。私にはできないでは済まされません。もちろん最初から100%出来るとは思っていませんが出来るだけ早く一人前になるよう努力して下さい。そして、今の医療情勢をふまえ一步先を進める医療従事者になるよう今の気持ちを忘れずに頑張ってください。



## 今年度も多くの新入職員を迎え開設10年の節目を迎えます。

平成22年新入職者を迎え恒例の新人歓迎会が4月12日開催された。当院が初めての職場となる方もいれば幾つかの病院、施設を経てこられた方もいる。どちらにせよ新たな決意と希望を胸に秘め、これから私たちと共に脳外科急性期病院での医療を実践していくことになる。

大西脳神経外科病院が開院して10年の節目の年、これから10年後当院スタッフの中心的存在として新入職員を迎える側に皆さんがいる事を期待したい。



### SpecialistでありGeneralist

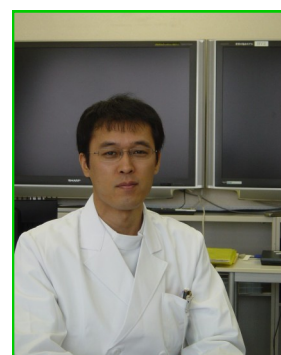
### 医師 宮田 至朗

大西脳神経外科病院に赴任して早5ヶ月が過ぎました。これほど時が過ぎる速さを感じたことはありません。赴任前より耳にしていた、なんといっても多くの手術数と疾患の多様さを実感し、それを支えるスタッフ・部署間の連携は本当に素晴らしいと感じております。充実した日常の中にも行き詰まりや矛盾を感じることはありますが、大西院長や他の先生方、スタッフ

の方々の温かいご支援により何とか転ばずにスタートが切れたかと思えます。

脳神経外科には血管障害、腫瘍、外傷、変性疾患、先天異常、機能性疾患など他分野に比し極めて多彩な疾患分類があり、部位別にみても脳・頭蓋、脊髄・脊椎、末梢血管・末梢神経と幅広く、年齢・性別まで考えると扱う範囲は広大です。意識障害をはじめ、「何だか分からない症状」の初療にあたる機会が多く、脳神経外科医はspecialistであることは当然、同時に広く総合診療技術も問われるgeneralistでなければと思う次第です。

新入気分から脱し、精進して参りますので今後とも宜しくお願い致します。



specialistであり  
総合診療技術も問  
われるgeneralist  
でなければと思う



### 挑戦するための技術と知識を

### 理学療法士 鹿子木 知之



本年度からリハビリテーション科でお世話になります、理学療法士の鹿子木知之です。出身は、熊本県人吉市で理学療法士になるために山口市にある山口コメディカル学院で3年間を過ごしました。

趣味はスポーツをすることです。今年の目標は、挑戦するための知識と技術を身につけるために研鑽する事です。まだまだ仕事の内容も、兵庫県についても慣れておらずわからな

い事ばかりですが、早く仕事に慣れて日々精進出来ればと思っています。職員の皆さまにはご迷惑をかけることもおと思いますが精いっぱい頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。



## 一つ一つを確実に

## 看護師 3階病棟 神林 遼



今年4月から看護師として3階病棟に配属されました。神林遼です。

今まで、看護師として働いた経験もなく本当に一からのスタートですので、分からない事もたくさんあり皆様にはご迷惑をお掛けするかもしれませんがよろしくお願いします。

働き始めて約3カ月経ちました。学生のころに経験した実習とは違い、実際に患者さんに吸引を行ったり採血をしたりと医療行為を行うようになりました。それに伴い責任が掛るため一つ一つ確実にこなせるようにならなくてはなりません。そのため、目標として技術、知識向上と看護師経験も無いので早く業務や現場に慣れることを目標にしたいと思っています。

す。すごく恥ずかしがりやで自分から会話をしたりするのが苦手ですので気軽に声を掛けて下さい。これからよろしくお願いします。



## 意味のある介護を目指して

## 介護福祉士 石川 泉

入職して、わずか数カ月。私は今まで施設で働いたことはありましたが、病院で働くことは初めてでした。入職前、脳神経外科と言う専門的な病院で、何の知識もない私に何が出来るのかという不安の反面、どんな介護をされているのだろうという期待を持っていました。そして一番の思いはこれまでの経験で学べなかった事を一つでも多く学びたいという気持ちでした。

実際、周りに専門職の方ばかりいる環境で仕事をさせて頂いている事で毎日新しい発見があります。入浴、排泄、食事だけではなく、ケア面に関しても、一人一人の患者様に合わせた必要な介助を行う為には、まずは患者様を知ることが大切であり、知るためには看護師さん、先輩介護士さんからのアドバイスを基に情報収集をすることが重要で、患者様との関わりの中で気持ちに寄り添う事だということも学びました。

また、その時々において必要なケアを行う事の大切さ、そしてなぜそのケアが必要

なのかという意味を今まであまり深く考えていなかったことを思い知らされ、改めてケアの重要性を再認識しました。まだまだ先輩方からご指導頂いている私です。日々学ばさせて頂いていることに感謝しつつ、これからも一歩ずつ前進していきたいと思っています。



今必要なケアを行う事の大切さ、そしてなぜそのケアが必要なのかを考えて

## 優しい先輩に恵まれ

## 看護師 3階病棟 杉浦 仁美



4月からお世話になり数カ月がたちました。まだ新しい生活が始まったばかりで緊張していますが、オリエンテーション期間でも、優しい先輩方ばかりで少しずつ緊張もほぐれてきています。私は経験も浅く、新しい病院に勤務する事自体大きな不安もありました。また脳神経外科という専門性を要する現場で自分が業務を果たせるようになるのか不安もありますが、自分がこれから見につけていかなければならない事を頑張っていくにはやはり自分が頑張

ろうと思える環境が重要だと思っています。看護師として自分がどんなふうになりたいのか、何がしたいのか、目標を見つけることを1つの目標として持っています。

病棟での勤務はまだ始まったばかりです、話を聞いているだけでも「こんな看護師になりたい」と思わせてくれる先輩方がいることに今はとても大きな期待を持っています。これから看護師の先輩方だけでなく、様々な職種の先輩方にもご迷惑をおかけする事かと思いますが、よろしくご指導ください。

## 新たな一歩を

## 看護師 3階病棟 中川 加菜



3年間は看護学生として勉強と仕事を両立し、4月から看護師として入職する事になりました。

今までは学生だから…と先輩に甘え、自分自身にも甘えてきたように思います。今、社会人として新たな一歩を踏み出し、たくさんの事を学びたいという気持ちと共に、国家資格の重みを感じるようになり怖さもあります。ですが怖いと逃げていたら今までと何も変わらない。だからこそ今は一つ一つ勉強し指導を頂きフィードバックしながら前に進んでいきたいと思えます。ご迷惑を掛けることも沢山あると思えますがよろしくお願ひします。



## ゼロからのスタート

## 理学療法士 南 桃子



4月から入職しました、理学療法士の南 桃子です。いよいよ理学療法士としてスタートラインに立つことが出来ました。高校卒業後専門学校に入ったため社会人経験もなく全てがゼロからのスタートになります。入職以来、本当に緊張の毎日で、業務の流れを把握したり、電子カルテの操作を覚えたりするのに奮闘中の毎日です。もちろん理学療法士として先輩の理学療法士から技術を学ぶ事が最も重要で大変である事は言うまでもないのですが、これから先、職員の皆さまには色々ご迷惑をおかけするかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 新たな気持ちで看護部

## 2階病棟 中川 協子



4月から2階病棟に配属となりました。開院から4年半こちらでお世話になりました。それからいくつかの病院で勤めて参りましたが、大西脳神経外科病院での経験で学んだことは私自身にとっても大きなものであったと感じる毎日でした。あの頃の若さも無く心身共に鈍くなっておりませんが、もう一度頑張らせて頂きたいと思い復帰させて頂くことになりました。業務に慣れる

まで皆様方にはたくさんのご迷惑をおかけいたしますが、どうぞ暖かく見守って下さい。少しでも早く自分らしい看護が出来るようにそして目標をもって日々励めるように、新たな気持ちで頑張りますので、どうぞよろしくご指導お願いいたします。



## はじめまして！

## 言語聴覚士 長島 綾子



はじめまして。言語聴覚士としては経験4年目になりますが、一から勉強し直したいと思い、このたび転職して参りました。社会人としても言語聴覚士としてもまだまだ未熟者です。しばらくは業務に慣れることに精いっぱいであり、皆さまにはご迷惑をお掛けする事とおもいますが、どうぞ宜しくお願い致します。まずは業務に慣れ、一人前の言語聴覚士として少しでも早く患者様のリハビリテーションをして行けるよう、日々精進してまいります。



## いつも笑顔で

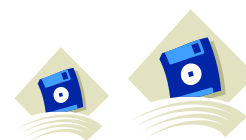
## 看護師 2階病棟 松田 香織

2年間の学生生活を終え、ようやく病院の現場に戻ってきました。学生の間は、早く現場に戻りたくて仕方が無かったのですが、いざ戻ってくると不安と期待の入り混じった少し複雑な気持ちです。また、研修を受ける中で改めて命を預かる事の責任の重さを痛感し、身が引き締まる思いです。

これからは、今のこの気持ちを忘れず、これまで私を支えて来てくれた家族や友達、先輩方に恩返しができるように、患者さんにはいつも笑顔で安全な看護が提供していきけるように日々精進していきたいです。まだまだ色々のご迷惑をかけますがよろしくご指導お願いします。

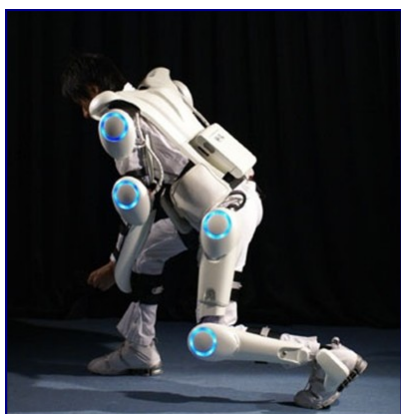


# ロボットスーツ!!



「ロボットスーツ」と聞いてどのようなものを想像しますか？

テレビで見たようなロボットや仮面ライダーのような変身用具と想像は膨らみますが…まあ百聞は一見に如かず写真を見て下さい、こんな感じです。これはちょっとかっこよく映し過ぎのような気がします



が、実際病院や施設などでの使用は右の写真のような感じです

実はこのロボットスーツはサイバーダイナミクス株式会社と言う筑波大学大学院システム情報工学研究科(山海嘉之教授)の研究成果を活用することを目的に2004年6月に設立された大学発のベンチャー企業が開発・研究を行っているもので、その名もHAL (Hybrid

Assistive Limb)、大和ハウスはその総販売代理店として提携しているそうです。

## なぜ大和ハウスが？

と思いますよね、実は大和ハウスにはシルバーエイジ研究所なる機関があり一般住宅はもちろん、福祉施設、老人ホーム、病院に至るまで住宅環境という側面から高齢者社会の問題に取り組んでいるそうです。

「建物も介護(ケア)の一部」という理念とコンセプトとともに、そこに生活する高齢者の方々が「安心して穏やかに老後を過ごせる住環境であるべき」という姿勢で研究開発を行っている部門があるわけです。ロボットスーツの用途が福祉機器として広まるためには、使用する施設、場所がこのロボットスーツに対応した住宅環境であることが望ましいと考えればサイバーダイナミクス社と大和ハウスが共同で動くのは自然な流れでしょう。まだ開発段階でいろんな学会などへの出展が行われており先日当院でもこのロボットスーツのデモをして頂きました。



## まず、両側下肢に装着し起立、歩行、階段昇降等を体験した理学療法士鹿子木氏のコメント…

今回私は、両側下肢タイプのロボットスーツを体験した。正直な印象として「歩きにくい」と言うのが最初の感じでした。各関節の屈曲・伸展のアシストはあっても回旋の動きが出にくく正常の歩行とは逸脱する部分も多かったように感じました。介助する部分と逆に制限となっている部分の検証が今後必要なのかと思いました。

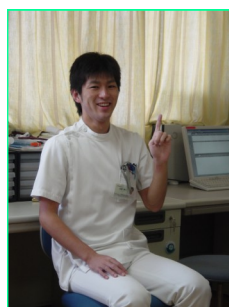


## 一側下肢にスーツを装着した理学療法士佐藤氏の体験報告では…



まずはじめに受けた印象は「重い」という感じでした。電源が入っていないからと大和ハウスの方に説明されながら電源が入り、筋収縮に合わせてモーターが働きだすと自動運動が楽になり、精密さを体感しました。

歩行する際力源として使用するのは筋力だけではなく、重力、慣性など様々な要因があり、その安定性に問題はあるものの自分が思った以上に力が出せることは驚きました。



## ふれあい看護体験 ～ 看護の心をみんなの心に ～

ふれあい看護体験とは、病院などで患者さんとのふれあいを通して看護の体験をする事です。

市民と医療関係者が交流して看護につ



小林 侑衣さん 斎藤 萌さん

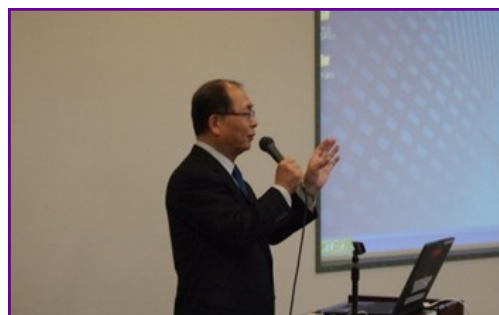
いて考えるきっかけとなり、患者さんとの触れ合いを通して看護する事や人の命について理解と関心を深める機会を提供する事を目的に「看護の日」「看護週間」の記念事業の一環として全国的に開催しています。

参加施設は、病院・老人健康保険施設・特別養護老人ホーム・保健所・保健センターや訪問看護ステーションなどです。フレイ会い看護体験への参加を、中学、高校性を始めとして一般市民の方々も参加できます。

当院でも7月29・30日の二日間2名の女子高校生が看護体験に来られました。

## Best Doctors !

## Ohnishi Hideyuki



## 市民公開講座で質問に答える大西院長

院長室に業務の事で相談をするため伺った時ふと目に留まったのが無造作に壁に立てかけてあった「Best Doctors」(写真)の盾でした。2008-2009、2010-2011年の二つがあり、院長にお聞きしたところ「何かの団体が選んだらしいよ、詳しい事は良く分からないけど…」との答えでした。

皆さんは毎年世界各地でベストドクターが選ばれている事をご存知ですか。選出している機構はベストドクターズ社 (Best Doctors, Inc. 本社は米国マサチューセッツ州ボストン) で、1989年にハーバード大学医学部所属の医師2名によって設立されました。病に苦しむ方々が最良の医療を受けられるようにという深い思いが設立の礎であり、独自の調査によって選

出された優れた医師によるセカンド・オピニオンや名医情報の提供を行っているそうです。

選出方法は医師同士による相互評価・ピアレ

ビュー調査により行われています。この調査は、医師に「自己または家族の治療を、自分以外の誰に委ねるか」という観点から、他の医師についての評価を聞く事により進められ、最終的に一定以上の評価を得た医師が選ばれる仕組みです。この調査の特徴は、医師のみによる医師に対する調査で客観評価が可能となっているという事です。この手法により各専門分野の「ベスト」として選り抜かれた医師が日本で約3,900名。病を患う方々が必要な情報を手に入れる「近道」を提案し、治療のためにひとつの有力な「道標」となる事、この基礎を作り出すのがベストドクターズ社のピアレビュー調査だという事です。

日本に約25万人いる医師のうち、僅か3900名(約1.6%)に選ばれている事が凄いなと思いましたが、院長は「選んで頂いたことはうれしいが、あくまでも一つの指標でしかないのでは…」と冷静なコメントでした。



院長手術中の貴重な写真



## 禁煙しま専科② 経済的にも身体にも問題は大きい、わかってはいるものの・・・

### 女性の為の禁煙！煙草はお肌の大敵です

タバコを吸うと美容における多くのデメリットが発生します。肌はくすみ、シミやしわが増えていきます。また、スモーカーズフェイスという喫煙者特有の顔立ちやしわがれ声、口臭や歯・歯肉の着色等も引き起こしてしまいます。若さ、美しさを守るためには、まず禁煙からスタートすることが大切です。

一昨年、発表された研究です。研究を行ったのは、ロンドンにある「聖トマス医科大学」アンソニー・ヤング博士らの研究チームで、「肌が老けるのは、喫煙によって、皮膚のコラーゲンを破壊するたんぱく質が増えるからだ。」という発表がなされました。

もともとは、紫外線と皮膚のコラーゲンを破壊する酵素「MMP-1」の関係を調べていました。紫外線を受け続けるとこの酵素の量が増えることを見つけると



ともに「喫煙」でも著しく増加することに気がついたのだそうです。この酵素が増加するとコラーゲンが分解されるためにお肌が荒れて老化が早くなりしかもその度合いは結構高いというのです。ある研究では肌の水分量や皮脂量で喫煙者と非喫煙者では40歳代女性平均で10%程度の差があったという報告もあります。

この酵素、お肌以外のところでも活躍しているようで、喫煙をするというのは体の各所でこの酵素を活性化させ、大事な繊維性タンパク質のコラーゲンを分解しています。

人間の体は繊維性タンパク質がないとバラバラになってしまいます。そのコラーゲンを大切にするために「禁煙」を今から始めませんか…



## 病院のあちこちにある花壇、季節ごとの花が咲いています。



## 編集後記

蝉は夏にしかその姿を見せないが、気温が高すぎても蝉は鳴かないらしい。蝉といえども朝夕の涼しい時にしか仕事をしないという事だ。世界の各地で異常気候が大災害を引き起こしてるようで、大雨、洪水、猛暑による熱射病など死者も後を絶たない。30年前は扇風機と風鈴で暑さはしのげだし、夜中に蝉が鳴く事

も無かった。朝はひんやりとしていたし、夜は窓を開けてテレビを見ていた…色々な事が少しずつ変わってきている。みな危険だと思っはいるが焼け石に水的考えが抜けない、身の回りで出来ることは何かを考えることはあっても、実行にはなかなか移せない。身の回りの節約は、地球そのものの節約に繋がるはず。先ずはクーラーの設定温度を一度上げてみましょう。吉野

